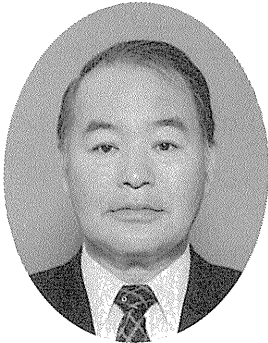


ずいそう



生む苦しみ AND DREAM

沢田 進

毎年の事ながら今頃になると、個人的に目標の達成度が気になりかける。今年は特にスポーツ界ではイチロー選手と「Qチャン」こと高橋尚子選手が素晴らしい活躍をし、私に DREAM を与えてくれた日本の若者達です。

目標への挑戦、それは「生む苦しみ」とも言えるように思う。資質も重要な要素ではあるが、体力、知力、多くの情報を自らが分析し、繰り返し行動をする事が、目標へ近づくのではないだろうか。そして、また次の目標へと行動を起こす。いつかは DREAM の実現を目指して……。

1978年、私はカリフォルニア・レンタル協会の総会に参加しました。サンディエゴの会場には沢山のメーカー等が建設、産業機械の展示をして賑わっていました。私にとっては初めての国際展示会の経験です。

そこで出会ったのが、移動式照明機です。国内では国道や高速道路の維持工事やメンテナンス工事は夜間が多く、私も当時オペレーターとしてよく現場に出ておりました。

作業開始前に夜間照明の準備約2時間、作業の照明撤去約2時間……、何とかならないかなア？ こんな状況での出会いだったのです。

1,000 W×4灯、10 kVA 発電機搭載、7 m ポール、けん引式台車。これが当初製作した投光機です。

まず、けん引式は運転免許の関係で不評。発電機は防音型ではないので、これまた不評。手巻き式のウインチによるポールも重いと不評。1,000 W×4灯のみ明るい、と好評。

その後改良を重ね、6,000 W カクテル光線型、防音発電機搭載、車輛搭載、油圧による各操作可能。これらが現在に至った次第です。この間約5年。防音にするため、グラスファイバー系の防音・断熱材で全身がチクチクとかゆくて寝られない日もあり、光源ばかり長時間眺め目を焼いたり、耐振仕様になっていない、電球、器具、安定器等が破損し発電機が燃えたり、充

分に、「生む苦しみ」を味わったように思います。中でも、移動型照明車は昼間でのPR活動は説得力がなく、どうしても夜間になります。毎晩12時が定時となり、家庭内も停電現象が増え、現場に明るさを提供する仕事も、一方では暗さも作っていた訳です。今は明るさも戻っています。このように難産の末に生まれたのが、もっと光を！「テラスター」です。

途中、ガス工事、電力工事の夜間用として、取り組んだのが、「ミニテラスター」です。

400 W×2, 2 kVA ガソリン発電機, 4 m ポール, 手押し型。この機種も多くの問題が発生しました。エンジンがうるさい, ポールの伸縮が重い(腕力のみで行うため), 移動時倒れやすい, 格好がよくない, 連続運転時間が短い等。色々とメーカーとも相談しながら現在の1,200 W, 2.4 kVA ディーゼル発電機, 連続運転時間約20時間, 4灯式カクテル光線が出来上がった。ミニテラスターはイベントにも活躍しているが, 防犯用としてよく通路で使われている。その隣で夜店のオジサンがちゃっかりと, 当発電機を利用して照明にしているケースも多い。これも社会に貢献!?

ミニテラスター, テラスターともにカクテル光線を利用し, 目にやさしさと, 出来る限り夜間の自然色を追求している。

その後, 特別に広域照明として, 15,000 W, 18,000 W を開発し, 関空やダムで活躍, 現在, マレーシアで老後も活躍中です。

最近では、「生む苦しみ」を覚え, 3人目の気球型照明, 「ルミエアー」に挑戦中。もともとフランス製で, 室内照明として開発された。日本で工事に改良しようと, 日仏で取り組んでいる。600 W, 1,200 W, 2,400 W の3モデル, メタルハライドランプを使用し, 瞬時に点灯, 再点灯可能。機械への取付方法や, 気球生地, 耐振性, 環境に調和した明るさ, 美しさ, 騒音, 等問題は残る。しかし, 多くの現場を見, 多くの人に会う事から解決の道は開かれるものとして「生む苦しみ」に挑戦して行くつもりです。1978年から23年間照明にこだわって来ましたが, ミニテラスター, テラスターの成長と貢献が, DREAM に近づけるよう見守り, 又新生児「ルミエアー」も元気に育ち, DREAM に向かって……。

「ずいそう」という事で想いを巡らしましたが, 結局仕事の延長のようになりました。PRでも自慢話でもありません。私の心の中にしっかりと根づいて, 「五時から男」のように今後も「光」と共生して行くのでは……。そして, いつかは, 「DREAM」を掴まえたい。

今日も「生む苦しみ」を体験している人達に乾杯。